

令和2年度第3回焼津市総合教育会議議事録(概要)

1 開催日時 令和3年2月22日(月) 午後3時から午後4時20分まで

2 会場 焼津市役所6階 603号室

3 出席者

(構成員)

市長 中野弘道

焼津市教育委員会

教育長 羽田明夫

教育委員 大石智之 奥川重子 山竹葉子 河江富男

(関係者)

副市長 下山晃司

社会教育委員長 渡邊徹

(事務局)

教育委員会事務局長 櫛田隆弘、教育総務課長 増田洋一、学校教育課長 池田純也、学校給食課長 鈴木孝之、社会教育課長 見崎孝之、文化財課長 佐藤三夫、図書課長 石上睦晃、学校教育課主席指導主事 寺尾正幸、学校教育課主席指導主事 鈴木泉、教育総務課総務担当主幹 片瀬能彰

交流推進部長 小梁金男

こども相談センター所長 岡村昇

4 協議事項

(1) 焼津市教育大綱の見直しについて

(2) 教育センター事業について

(3) 家庭・子ども支援室について

(4) その他

5 議事内容

別紙のとおり

	<p>【午後 3 時開会】</p> <p>(次第 1 開会)</p> <p>(次第 2 市長あいさつ)</p> <p>中野市長 皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、「令和 2 年度 第 3 回 焼津市総合教育会議」に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。教育委員の皆様におかれましては、日頃より、本市の教育行政にご尽力いただいておりますことに、改めて御礼申し上げます。この「総合教育会議」は、教育委員会と行政が教育施策の方向性を一致させ、より良い教育環境の構築を目指すことを目的としております。学校現場の意見を聞きながら、行政主導にならずに前に進んでいきたいということで、様々な施策に取り組んでいるところでございます。本年度は、焼津市教育大綱の見直し、教育センター及び家庭・子ども支援室について御協議をお願いしているところです。本日は、本年度最後の総合教育会議となりますので、各協議事項について、取組状況、次年度の計画などについて、御説明させていただきます。教育委員の皆様には忌憚のないご意見をお願いいたします。また、新型コロナウイルス感染症であります。現在、焼津市では 160 人強が陽性と確認されていますが、ポイントは陽性者の感染経路であると考えています。焼津市の場合は 9 割以上の感染経路が確定しております。これは、市中感染が発生していないということになります。市民の皆様がしっかり感染対策を講じていることが大きな要因であります。教育委員会と市が連携、協力し、より良い教育の方向性を見出すことができますよう、御意見、御指導をお願い申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。</p> <p>(次第 3 協議事項)</p> <p>(1) 焼津市教育大綱の見直しについて</p> <p>櫛田事務局長 配付資料により説明 パブリックコメントを実施したが、意見等はありませんでした。</p> <p><質疑意見なし></p> <p>中野市長 それでは、お手元の大綱(案)を承認することとしてよろしいでしょうか。</p> <p>全委員 <異議なし></p> <p>中野市長 ありがとうございます。それでは、承認とさせていただきます。</p> <p>池田 学校教育課長 (2) 教育センター事業について 配付資料により説明</p>
--	---

奥川委員	<p>教育センター事業が順調に、教職員の評価が高くなっていることに、大変ありがたいなと思います。この間の、目に見えぬ努力というのは、教育委員会の中でも大きな課題であったと思いますが、こうして、成果が上がっていることを大変ありがたく思います。プラス評価が多いということに対して、外への発信をどうするかということを考えます。実際に受けた教職員が「焼津っていいかもね」ということを、外に向かってどのように発信していくかということです。教職員のなり手が少なくなっている時代で、広報をどうしていくかということとは、大きな課題だと今思いました。</p>
池田 学校教育課長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。広報については、来年度中に広報やいづの臨時号を発刊し、広報していこうと考えているところです。教職員が減っていることについては、来年度10月から行う、みらいアカデミーを、大学等に広報し、未来の先生を集めて研修を行っていく中で、教師の魅力をアピールしながら育てていきたいと考えているところです。</p>
中野市長	<p>情報発信については、焼津市はAIチャットボットで、ラインでも発信していますが、内容を充実させていきたいと思っています。</p>
大石委員	<p>ステップアップ教室について、どういうきっかけで参加したか。あと、アンケート結果を見ますと、算数が好きになった割合が増加していますが、ステップアップ教室の成果が数字で見れるものがあるのかなって、もしあったら教えていただきたい。</p>
鈴木 主席指導主事	<p>本年度は、コロナの関係で少なかったが、学校から保護者へ募集要綱を配付します。放課後に実施しますので、保護者の了承を得たうえで参加しております。数字の件は、令和4年度には全校で実施したいと考えていますが、半期で8回の開催となります。なかなか数字で成果を見るのが難しいところです。ただ、子どもたちの意欲は非常に向上しており、授業中の態度に表れています。</p>
池田 学校教育課長	<p>(3) 家庭・子ども支援室について 配付資料により説明</p>
河江委員	<p>数校支援を行っていない学校があるとの説明でしたが、その学校は、自分たちで、独自に対応して、処理をするという意向なんですかね。</p>
寺尾 主席指導主事	<p>あゆみの方に学校からニーズが来ていないのは事実です。学校で対応し、うまくいっている学校もありますし、中には、うまくいっていないが、どうしたらいいかわからない状況で、こちらにつながっていないケースもあります。あゆみの実績をこれからお伝えしていくことで、支援につなげていきたいと考えています。</p>

河江委員	いじめと不登校は要因は違うんですか。
池田 学校教育課長	不登校児童生徒の要因ですが、様々な要因があります。自分自身のことや、家庭状況のこと、学業不振ということもあります。その中の一つとして、いじめによる不登校もないわけではありません。
河江委員	本年度は、いじめから不登校となったケースはないと聞いていますが、不登校は新聞にも掲載されていましたが、多いですね。そういう人が将来ひきこもりになって、大きな問題ですね。
羽田教育長	不登校は、児童生徒が減少しているのに、増えていってる現状ですので、非常に大きな問題だと思います。要因は様々ですが、最近、気になるのは授業にでていないが、分からなくなつて学業不振が要因となっていることが多いと感じます。大綱で「やさしくつよく・いとしい人」としたのも、子ども自身が、柔軟に、しなやかに対応する強さを、子どもたちに身につけさせていくことが一番であると思います。あゆみは「守り」で問題解決に向けて対応していくことが基本であります。焼津市としては、とてもいい施策だと思います。一方、教育センターは積極的な取り組みで、子どもたちが、「学校楽しい、友達や先生大好き」ってなれば、学校を休まない。この、両輪がそろってきて、充実させることが大事かなって思っています。
奥川委員	かつて、教育現場にいましたが、あゆみができたことを、大変心強く思います。教員は一人一人を大事にしていますが、なかなか、自分だけの力では解決できないこともあります。あゆみが、いろんなところとつながりを作ってくれる。それが、大変大きな支援になっているなと思います。それは、教師の自信にもなっていきます。一朝一夕に解決は難しいと思いますが、保護者にとって、いろんな人が心配してくれる安心感みたいなものが、ゆとりになったり、将来的な引きこもりを減らしていく力になっていくのかなっていうことを思いました。
山竹委員	ぜひ、他の色々な機関との連携を強めていただいて、「助けて」といえるところには、支援の手が届くんですが、言葉を発せられないところに支援できるように。子どもをきっかけとして全体的な福祉につながるということもあると思うので、大変御苦労なことであると思いますが、頑張っていたきたいともいます。
大石委員	一年で成果が見られて、頼もしい。ほとんどのケースはいい方向へ向かっていると報告を受けましたが、一部、継続的支援に至らない家庭もあったとあるが、どのようなケースだったのでしょうか。

<p>寺尾 主席指導主事</p>	<p>なかなか会うことができないが、家庭訪問して手紙を届けるなど、なんとか、引き続きの支援につながるように、働きかけは続いているところです。いい方向へ動き出してはいないけれども、関係機関と連携しながら、よりよくなる方策を探っているケースです。</p>
<p>大石委員</p>	<p>これから、拡充していくとこのようなケースも増えていくので、負担がどんどん増えていくのかなって、すごく心配です。いろいろな経験を積んでいけば、解決への道筋も見えてくると思いますので、辛抱強くお願いしたいなと思います。</p>
<p>櫛田事務局長</p>	<p>(4) その他 次年度の協議事項について 事務局の素案を説明。 1 「優しく、強く、愛しい人」を育てるための教育について 2 情報活用能力、情報端末を活用しての効果的な授業について 3 外国につながる児童生徒への教育支援について 4 外国語教育について</p>
<p>山竹委員</p>	<p>総合教育会議にテーマとしてふさわしいかわからないんですが、教員の研修の強化について、教育センターの関係で説明がありました。国の方も今までやってなかったことをこれからやっていくと。そうすると先生方の負担が心配されます。先生の負担を軽減する手段とか省力化できることが、わかればいいなと思いました。</p>
<p>大石委員</p>	<p>なかなか優先順位は難しいですが、教育大綱が改定され、「優しく、強く、愛しい人」を育てるための教育については、最優先であると思いました。また、情報活用能力、情報端末を活用しての効果的な授業についても、速やかに対応する必要があります。また、来年度は社会教育分野のほとんどが、市長部局に移るということで、今まで、教育委員会に学校教育と社会教育があって、連携ができていた部分が、組織的な距離ができてしまうことが心配されます。これからの学校教育は、民間の人を学校に招いて授業してもらおうとか、社会現場に出かけて行って学習するとか、より社会に近いところでの学習が増えていくべきじゃないのかな、ICTが発達してくると、よりやり易くなるのかなって、社会教育分野との関連性も大事になってくると思います。コミュニティスクールが運用されてくると、より民間の力が必要になってくると思うんですが、各コミュニティスクール単位で対応することは難しい話で、学校教育との中間にあるコーディネートする組織があればいいと思っているのですが、来年度は早すぎるのかもしれないし、コミュニティスクールの運用が始まってからでいいが、やっていく必要があると感じました。</p>

奥川委員	<p>情報活用能力、情報端末を活用しての効果的な授業については、来年度後半には、結果を知りたい。電子黒板を導入する際は担当者が苦勞され、GIGAスクールでは、本年度中に設置できたのは、担当者の苦勞と、コロナ禍の財政難の時の市長の存在は大きいと思います。来年度の前半は無理だと思いますが、後半に学校の運用はどうなっているのか、授業の時に、手助けしてくれる人が欲しいよってというのがでてくるのか、ってということと、学校の要望を検討する機会。実際に私たちが、学校をどのように支援していくのか。前半は情報収取。後半から、やらなければいけないことかなって考えました。</p>
河江委員	<p>教育委員会から公民館等について所管が移りましたが、それは、教育委員会の先生方の負担が減ることになると思いますが、先日、焼津市学校運営協議会規則が制定され東益津中学から順次、令和5年までに全中学校区に、そんな計画ですよ。その時に、私が思うには、令和4年度にやるところは、学校が、準備とか主導してやってるといことなもんですから、地区との調整って、先生に相当な負荷がかかるんじゃないかなって思えるもんですから、コミュニティスクールの所管は教育委員会ですよ。</p>
羽田教育長	<p>地域学校協働本部は公民館です。その両方がタイアップします。</p>
河江委員	<p>負荷になるところが人員的にもバックアップをぜひしていただきたいなと思いました。よろしくお願ひしたいと思います。</p>
中野市長	<p>将来的に検討すべき事項など、様々なご意見ありがとうございます。皆様の御意見を集約しますと、来年度の協議事項は、「優しく、強く、愛しい人」を育てるための教育について、及び情報活用能力、情報端末を活用しての効果的な授業についての二つを軸にして、順次、必要な事項は協議していくという形でいかがですか。</p>
全委員	<p><異議なし></p>
中野市長	<p>本市の令和3年度組織改正について</p> <p>教育委員会においては、現在、学校教育課内にある家庭・子ども支援室を「課」とし、また、教育センター事業の充実を図るなど、教員が学校の教育に関することに、より専念することができる組織としていきたいと考えております。先生方の負担という話もありましたが、行政の職員も中に入って行って、こども未来部と連携し、多くの目で子どもたちを見守る体制ができると思います。個人の思いは、幕末に、外国人が日本に来ていて、日本は泣いている子供がいないと、日本は地域みんな、子供をあやしている。ということが日本の原点であると思います。まさに、今回の家庭・子ども支援課は、みんな、子どもを</p>

育てることにつながっていくと思います。全体の組織改革については、コロナ以前から、パラダイムシフトと学者は言いますが、新しい時代と言われていました。リモートも一気に進んでいますし、環境や価値観が大きく変わってきています。こうした多様化、複雑化していく行政課題の迅速な解決に向け、より機動的な組織に再編していきたいと考えています。機構改革の基本的な考え方として、大きく3つの視点により実施をまいります。1つ目として、将来にわたり持続可能なまちの構築に向け、『第6次焼津市総合計画』や、『第2期焼津未来創生総合戦略』による人口減少の課題解決に向け、さらなる推進を図るための組織。2つ目として、コロナ禍の「新たな日常」を踏まえ、デジタル化を強力に推し進め、オンライン申請やデータ利活用など、次世代型の行政サービス構築を推進するための組織。3つ目として、人生100年時代を迎える中、「健康維持」と「生きがい」につながる施策をさらに推進し、笑顔あふれる豊かな暮らし「スマイルライフ」の実現に向けた行政サービスを提供する組織。これらの視点のもと、特に3つ目の視点である、スマイルライフの実現に向けた行政サービスを提供するための組織として、趣味やボランティア活動、地域活動による社会参加を支援するため、公民館などの地域コミュニティ活動、スポーツ活動、文化活動を市長部局で一体的に推進しようと考えております。

(次第4 連絡事項)

増田
教育総務課長

本年度の総合教育会議は本日で終了となります。

令和3年度につきましては、先ほど御決定していただきましたが、優しく、強く、愛しい人を育てるための教育について、及び情報活用能力、情報端末を活用しての効果的な授業についての二つ中心にして御協議をお願いします。

日程につきましては、調整し、別途お知らせいたします。

(次第5 閉会)

【午後4時20分閉会】